

富山県内における 小学生宿泊型自然体験活動へのニーズと満足度等に関する調査研究

The Survey of Needs to the natural experience activities with the lodging and
Satisfaction-rates of the primary schoolchild in Toyama

谷口 新一
TANIGUCHI Shinichi

1 調査目的

子どもたちの生きる力を育む手段として、自然体験が注目されている。学校教育法第18条の2においても、小学校において自然体験活動の充実について努力することが規定されている。富山県においては自然体験率の向上が10年以上前から課題となっており、最近のデータでも次のとおり全国平均を下回っているのが現状である。

		何度も あった	ときどき あった	あまりな かった	全くな かった
海、山、湖、川などで遊んだことがありますか。	富山県	46.7	34.3	15.0	4.0
	全国平均	50.6	33.8	12.2	3.3

平成20年度全国学力・学習状況調査より(小学6年生、公立)

富山県において、なぜ自然体験率が全国平均を下回っているかということについては、ハード面・ソフト面さまざまな要因が複合していると考えられるが、自然体験が根付いていくためには、単に率を向上させるという表面的短期的な対策ではなく、満足度を向上させ、質的向上と量的向上という好循環が生まれることが必要であろう。

今回の調査では、富山県内に対象を絞り、キャンプ活動に期待することやキャンプ活動を通じて身につけてほしい力を明らかにするとともに、キャンプへの満足度に影響する要因を分析することを目的としている。また、キャンプ活動を主催する望ましい主体を調査することで、富山県における自然体験の未来像を描くことも目的としている。

2 調査方法

本調査は、あそあそ自然学校（富山県中新川郡上市町）と協力して行った。調査対象は、平成22年の夏休み期間中、あそあそ自然学校のキャンプ参加者全員（128人）を対象として、保護者宛に調査票を送付するという形式で実施した。調査期間は平成22年9月上旬～中旬。回収数は94（回収率73.4%）である。兄弟姉妹で参加している場合は、参加動機の強いどちらかひとりの子どもを想定して回答することとしている。

※本調査でのキャンプの定義

宿泊を伴う小学生向け野外活動

※表記等について

満足度については5段階評価としており、“とても満足”と“まあまあ満足”を“満足”、“やや不満”と“かなり不満”を“不満”とする。また、統計的に分析するにあたっては、とても満足を5、まあまあ満足を4、普通を3、やや不満を2、かなり不満を1、として得点を付与する。

3 調査結果と考察

(1) キャンプ活動に期待すること

単純集計 (グラフ) および属性差は資料1-1のとおりである。

1 : 自然体験、4 : 集団活動体験、3 : 生活体験の順に期待されており、6 : 教科的学習体験や9 : 地域の人との交流はあまり期待されていない。属性別では、女の子や進学希望が大卒未満の方が全般的に期待度は高い。

(2) キャンプ活動を通じて身につけてほしい力

単純集計 (グラフ) および属性差は資料2-1のとおりである。

1 : 主体性・自発性、3 : 自立性、6 : コミュニケーション力の順に高くなっており、7 : リーダーシップ力や9 : 体力は低い。属性別では、10 : 集中力や11 : 判断力において、男の子が高くなっている。また、低学年では3 : 自立性が高く、高学年では4 : 規範性・協調性、5 : 他者への思いやり、6 : コミュニケーション力が高くなっている。

さて、本調査では、1 : 主体性・自発性を“自分で考えてする”と補記しており、2 : 積極性を“言われたことを進んでする”と補記しており、積極的に違う意味を持たせている。つまり、2 : 積極性には“従順性”という意味を持たせている。2 : 積極性 (従順性) が高いのは、女の子や年収600万円以下というような属性である。“従順性”の有無がどのような項目で差を示しているかを明らかにするために χ^2 分析 (資料2-2) を行った。

2 : 積極性 (言われたことを進んでする) に○つけた39データとその他の2属性とに分けて他の項目との χ^2 分析を行った結果が右側2列である。1 : 主体性・自発性 (自分で考えてする) に○をつけたが (言われたことを進んでする) には○をつけなかった46データとその他の2属性に分けて他の項目との χ^2 分析を行った結果が左側2列である。

8 : 忍耐力・克己力、9 : 体力、5 : 宿泊体験の3項目は、どちらも99%有意を示しているが、その意味するところは逆である。2 : 積極性を期待している人は、上記の3項目も期待しているが、2 : 積極性ではない1 : 主体性・自発性を期待している人は上記の3項目を期待してはいない。つまり、“従順性”期待の有無でキャンプに期待するものが大きく異なっていることを意味している。また、“従順性”を望む人は、キャンプ活動を主催する望ましい主体として、1 : 国立の施設、2 : 県立や市立の施設、3 : 小学校や教育委員会を有意に希望している。

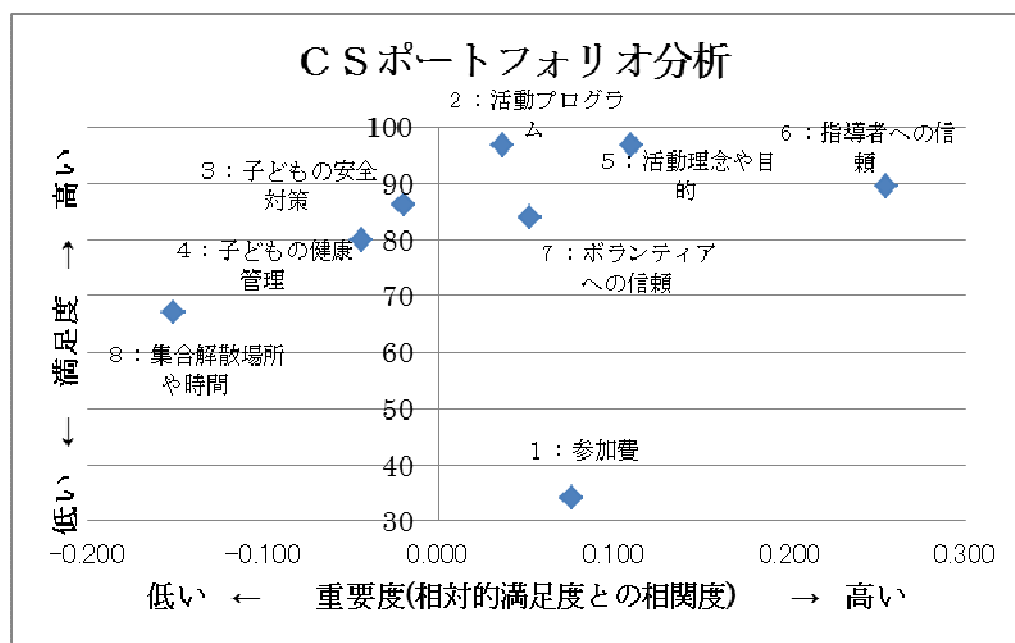
(3) キャンプへの参加満足度

単純集計（グラフ）および属性差は資料3-1のとおりである。

「あそそ自然学校に参加しての総合的満足度」は、“とても満足”が70.2%となっている。「他団体との相対的満足度」は、“非該当”が38.3%、“とても高い”が14.9%、“まあまあ高い”が17.0%となっている。8項目の個別満足度のうち、5：活動理念や目的、2：活動プログラム、6：指導者への信頼という項目の満足度が高く、1：参加費への満足度は低くなっている。参加申込の判断ポイントとしては、2：活動プログラム、9：子どもからの希望、5：活動理念や目的が高く、4：子どもの健康管理や10：友人からの紹介や評判は低くなっている。

【CSポートフォリオ分析】

個別満足度8項目と相対的満足度との相関係数を横軸とし、各個別満足度を縦軸としたCSポートフォリオ分析を行った。横軸の相関係数は、各個別満足度が相対的満足度に及ぼす影響度と解釈し重要度としている。



相関係数は各項目とも高くない。よって、大きな示唆は得られないものの、6：指導者への信頼は今後も維持していくことが重要であるとともに、1：参加費についての満足度を高めていくことが重要であることが窺い知ることができる。

【個別満足度の因子分析】

個別満足度8項目について、因子分析（有効データ92）を行った。回転前の固有値が1.0超を基準とすると1因子（固有値3.99）が抽出された。回転前の固有値が1.0に近いものとしては、0.98, 0.91という因子があり、確度は低いものの、3因子として、試分析した。VARIMAX法による直交回転後の因子負荷量が0.5超の項目に注目して3因子の解釈と命名を行った。なお、3因子

による累積寄与率（説明率）は59.1%である。

個別満足度項目	直交回転後の因子負荷量
第1因子：子どもへの配慮	
4：子どもの健康管理	0.798
3：子どもの安全対策	0.649
第2因子：スタッフへの信頼	
6：指導者への信頼	0.888
7：ボランティアへの信頼	0.605
第3因子：活動内容	
2：活動プログラム	0.929

累積寄与率は低いが、第1因子：子どもへの配慮、第2因子：スタッフへの信頼、第3因子：活動内容の3因子が抽出されたことは、キャンプ活動を実施する上で従来から基本的な項目とされてきた、安全面や指導体制、活動内容という意識に類型化されることが読み取れる。類型化されなかった1：参加費や8：集合解散場所や時間など運営面・マネジメント面については、独自の項目であるということがいえるであろう。また、5：活動理念や目的についても同様のことがいえる。それぞれの因子の累積寄与率が低いということは、8項目設定した個別満足度の設定についての妥当性を一面から説明するものでもある。

【相対的満足度と上記3因子との重回帰分析】

3因子と相対的満足度の因果関係を調べるために、相対的満足度を目的変数、3因子を説明変数として重回帰分析（有効データ57）を行った。

	偏回帰係数	t 値	p 値
第1因子	0.239	1.842	0.071
第2因子	-0.325	3.083	0.003
第3因子	0.040	0.345	0.731
定数項	3.701	31.899	0.000

第3因子のt値が低く、またp値もかなり高いため、第3因子を除いて重回帰分析を行った。

	偏回帰係数	t 値	p 値
第1因子	0.233	1.828	0.073
第2因子	-0.322	3.092	0.003
定数項	3.697	32.265	0.000

分散分析のF値は5.678となり、99%有意(自由度2, 54)である。

第2因子の偏回帰係数がマイナスとなっている。統計的には有意であるが、マイナスとなっていることについて解釈することは容易ではない。因子分析において、そもそも固有値の低い因子を取り上げたことも要因であるかもしれない。そこで、因子分析による間接的な手法ではなく、相対的満足度と個別満足度について、ダイレクトに重回帰分析を行うこととする。

【相対的満足度と個別満足度との重回帰分析】

	偏回帰係数	t 値	p 値
1 : 参加費	0.011	0.079	0.937
2 : 活動プログラム	0.044	0.162	0.872
3 : 子どもの安全対策	-0.333	1.283	0.206
4 : 子どもの健康管理	-0.118	0.508	0.614
5 : 活動理念や目的	0.096	0.314	0.755
6 : 指導者への信頼	0.783	2.967	0.005
7 : ボランティアへの信頼	-0.203	0.776	0.442
8 : 集合解散場所や時間	-0.273	1.674	0.101
定数項	3.344	2.843	0.007

t 値と p 値から判断して、6 : 指導者への信頼のみを説明変数として、再度回帰分析を行った。

	偏回帰係数	t 値	p 値
6 : 指導者への信頼	0.288	1.959	0.055
定数項	2.434	3.699	0.001

p 値が高く、確度は低い。また、分散分析の F 値は 3.838 となり、95%有意(自由度 1, 55)水準に達していない。

【総合的満足度と個別満足度との判別分析】

総合的満足度は、“とても満足”と“まあまあ満足”の2群に分かれている。そこで、この2群を決定する要素は何かを明らかにするために判別分析(有効ケース数91)を行った。

ステップワイズ法(P値のin, outはともに0.05)を用いて変数を選択した結果、分類関数や判別関数は次のような結果となった。

分類関数

	偏 F 値 / 自由度(1, 88)	p 値
5 : 活動理念や目的	11.309	0.001
4 : 子どもの健康管理	6.362	0.013

判別関数

	判別係数	標準化判別係数
5 : 活動理念や目的	1.951	0.987
4 : 子どもの健康管理	0.929	0.740
定数項	-12.535	
理論的誤判別率 0.262		

総合的満足度の“とても満足”と“まあまあ満足”の2群は、5 : 活動理念や目的と4 : 子どもの健康管理により判別できる。

これまでの分析では共通の示唆が得られないため、 χ^2 分析により、満足度に内在する要素を別

の角度から分析することとする。

【総合的満足度および相対的満足度と各項目との χ^2 分析】

総合的満足度および相対的満足度と各項目との χ^2 分析は資料3-2のとおりである。

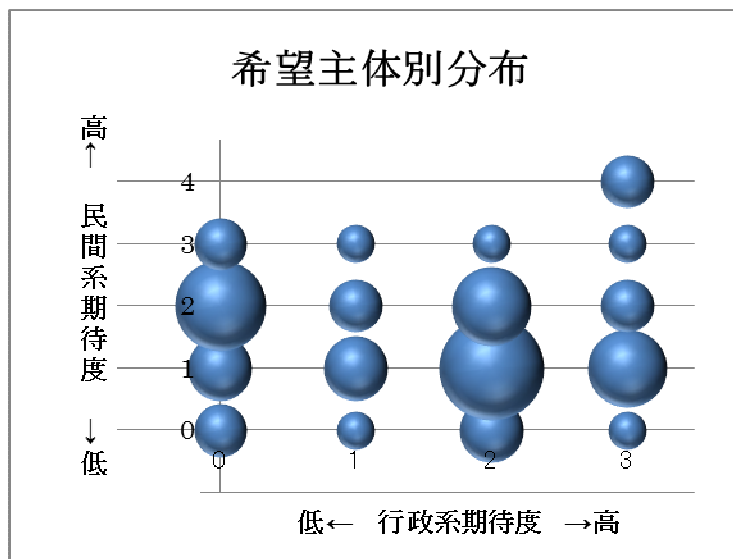
総合的満足度と99%有意の項目は、4：子どもの健康管理、6：指導者への信頼、7：ボランティアへの信頼であり、ともに高い方が総合的満足度も高くなる。相対的満足度と99%有意の項目は、5：青年会議所やJAなど地域団体であり、相対的満足度が高い人は5：青年会議所やJAなど地域団体を望んではいない。

(4) キャンプ活動を主催する望ましい主体

単純集計(グラフ)および属性差は資料4-1のとおりである。

7：独立系で民間非営利の自然学校が最も高く、1：国立の施設、2：県立や市立の施設も高くなっている。4：PTAや児童クラブなど保護者団体や5：青年会議所やJAなど地域団体は低くなっている。属性別では、7：独立系で民間非営利の自然学校を希望する人は、女の子や経験無が高くなっている。

次のグラフは、希望主体を行政系(1：国立の施設、2：県立や市立の施設、3：小学校や教育委員会)と民間系(4：PTAや児童クラブなど保護者団体、5：青年会議所やJAなど地域団体、6：民間企業が関係する自然学校、7：独立系で民間非営利の自然学校)に分けてどのような期待傾向があるかを表したものである。それぞれに属する項目の回答累計数を0～3および0～4としてバブル図を作成した。



ばらつきはあるものの、行政系への期待度を0とする層もかなりのウエイトで存在する。

【7：独立系で民間非営利の自然学校と各項目との χ^2 分析】

χ^2 分析により、独立系で民間非営利を希望する層に内在する要素を別の角度から分析することとする。7：独立系で民間非営利の自然学校と各項目との χ^2 分析は資料4-2のとおりである。

独立系民間非営利自然学校の希望と99%有意の項目は、6：民間企業が関係する自然学校、3：

子どもの安全対策、5：活動理念や目的であり、高い方が独立系民間非営利を希望する割合も高い。独立系民間非営利自然学校を“強く希望”（“強く希望”の定義は資料4-2を参照）と99%有意の項目は、1：主体性・自発性であり、独立系民間非営利自然学校を強く希望する人は、1：主体性・自発性を望んでいないということを示しており、想定される仮説とは反対の結果である。

4 提案とまとめ

(1) “従順性” 期待について

「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（中央教育審議会答申、平成19年1月）では、“意欲を持ってない青少年の増加への懸念”が示されている。米国・中国・韓国と比較して、「将来志向の頑張り型」が少なく、「のんびり型」が多いことも指摘されている。PISA（国際学習到達度調査）でも、日本の順位低下による学力低下懸念が指摘されている（PISAの順位低下が学力低下を意味するかどうかの論考はここではしない）が、私は順位低下や学力低下自体を直接的には危惧しない。私が危惧する本質的な問題は、日本の子どもたちの主体性や自発性が著しく低下しているという現状である。答申でも、自己肯定感の低さや自信のなさ、希望の欠如が指摘されている。自然体験は、主体性や自発性、自己肯定感の向上等に有効な機会となりうると考えているが、保護者からのニーズという面からそのあり方を考察することも有用であろう。

本調査では、『キャンプ活動を通じて身につけてほしい力』を調査しており、選択肢として、

- 1 主体性・自発性（自分で考えてする）
- 2 積極性（言われたことを進んでする）

などを設けて分析した。本文でも記述したとおり、本調査では、「主体性・自発性」と「積極性」について、“従順性”の有無という観点から意味の違いを積極的に持たせてニーズ把握しようとしている。従順性を期待する群は、忍耐力・克己力や体力も期待しており、いわば“スーパー従順性”によって社会を生き抜くことを期待しているということであろうか。従順性を期待しない群は全く逆で、従順的ではない生き方を期待しているようである。答申が指摘している“自己肯定感の低さ”等への改善期待と、保護者からの“従順性”期待については大きな乖離があるといわざるを得ない。従順性を子どもに期待する環境では、自己肯定感の高まりは期待できないと考えられるからである。また、“従順性”期待の有無でキャンプに期待するものが大きく異なっていることから、キャンプ活動を計画する際、同一集団で行うのではなく、参加層を“従順性”期待の有無により積極的に区別して実施することも保護者満足度向上のためには有効であるとも考えられる。ただ、“従順性”期待が子どもたち本人の福祉向上に寄与しているか、社会的な課題を解決しえるかという問いに対しての私の答えは否であり、“従順性”を期待したキャンプは子ども本人の成長や将来社会に参加する人づくりのためにも好ましい効果をもたらさないと考える。

単純集計では「主体性・自発性」への期待が最も高くなっている。また、従順的「積極性」を期待する群でも、97.4%が「主体性・自発性」も同時に期待している。このことは、“自分で考えてする”という「主体性・自発性」は保護者が期待する普遍的なニーズであることも意味している。また同時に、「主体性・自発性」は子どもたちや社会にとっても望ましい力でもあろう。自

然体験活動には、自然への畏敬や規範意識育成など、確かに大切なことではあるが子ども起点という考え方からは画一的かつ一元的という意味では対極的ともいえる期待も含め、多様な期待が社会の中に存在している。多様な期待の中でも、子どもたちも社会もハッピーになる「主体性・自発性」をどうやって応援していくか、この点にスポットをあてて自然体験活動を評価していくということもシンプルかつ意義あることと考えられる。

(2) 独立系民間非営利自然学校へのニーズについて

独立行政法人国立青少年教育振興機構国立オリンピック記念青少年総合センターが行っている『青少年の自然体験活動等に関する実態調査』でも、自然体験率の全国的な低下傾向が続いている。特に公的機関や民間団体等が行う自然体験活動以外の家族や友だちなどで行う自然体験活動の低下率が大きい。教育環境における家庭の重要性はことさらに指摘する必要はないが、自然体験活動には、家族や友だちというセクターではない地域教育力によるサポート環境が社会的に必要とされているということでもあろう。

富山県内においても、行政系、PTAなどの共益系、NPO系など様々な主体が自然体験活動を担っている。これまで、自然体験活動の意義や効果については多く議論されているが、どの主体が自然体験活動を担うべきかについてはあまり議論されてきていない。平成21年11月、内閣府行政刷新会議の「事業仕分け」で、独立行政法人国立青少年教育振興機構が運営する施設の運営を地方またはNPOに移管すべきとの判定がなされた。また、平成19年4月からは、富山県立の4施設は、指定管理者制度による運営または地元自治体に移管されている状況である。私は、指定管理者制度については、委託補助金方式ではなく、民間への譲渡または個別事業への助成金方式で行うべきであると考えているが、ここではこれ以上論考しない。

このように自然体験をめぐる環境が変化している中で、キャンプ実施主体についてのニーズを明らかにすることも本調査の大きな目的である。分析結果からは、残念ながら特別な示唆は得られなかった。しかし、単純集計では、「独立系で民間非営利の自然学校」へのニーズが最も高くなっている。あそあそ自然学校への参加者を対象とした調査であるのでバイアスの存在が考えられるが、税金に依らない活動への共感も背景となっているのではないかと。また、行政系には政府から多額の補助金（税金）が支出されており、1：参加費との関連が大きいのではと予想されたが、内在する大きな関連性は見受けられなかった。これらのことは、独立系民間非営利自然学校の存在基盤や存在意義を示唆するとともに、行政系が補助金により施設管理をすることについては公益的な意義はあると私は考えているが、自然体験活動プログラム自体において、参加費を補助金により低く抑えて実施することについては謙虚になるべきであるということを示唆しているのではないだろうか。

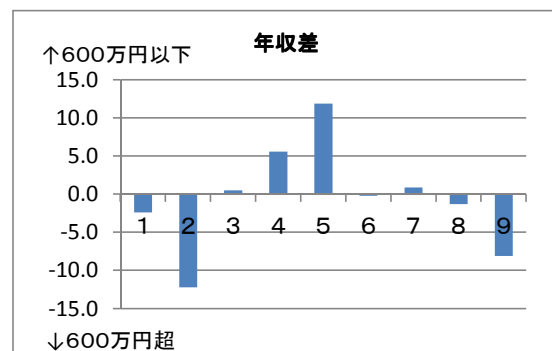
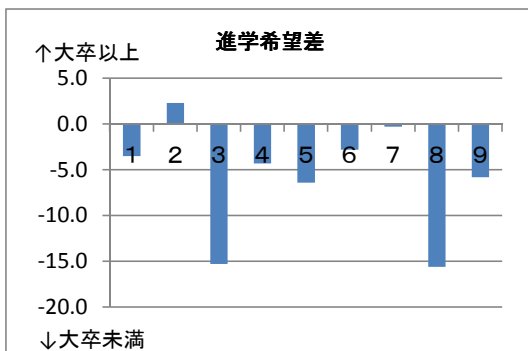
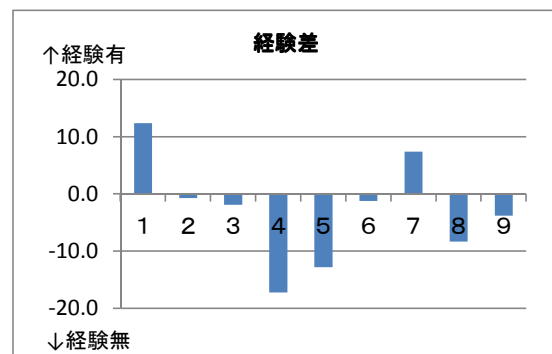
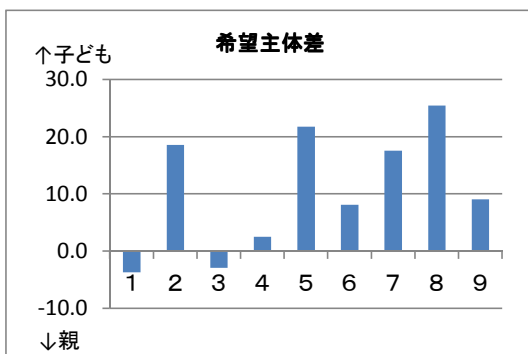
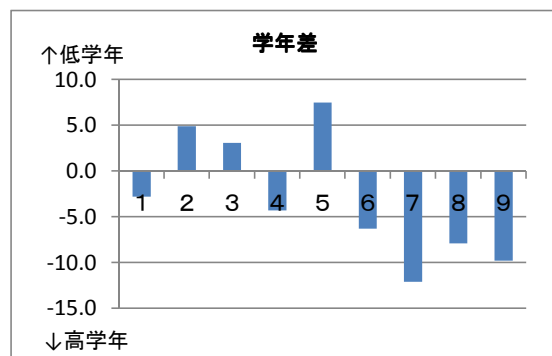
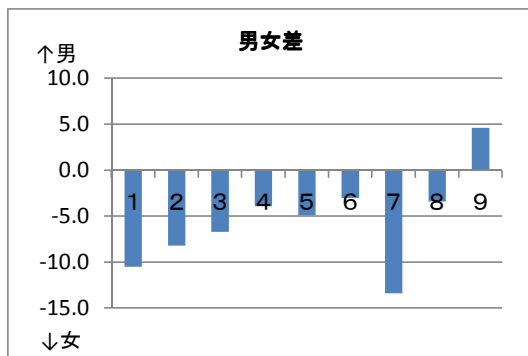
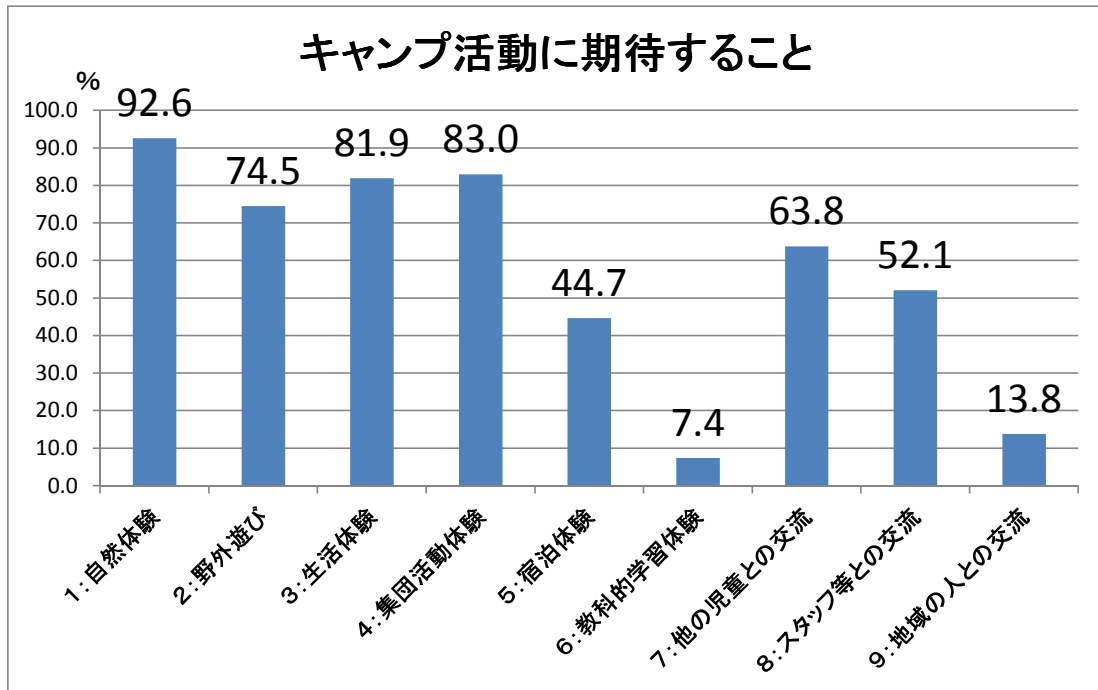
謝辞

本稿は、財団法人富山県高等教育振興財団による助成研究成果の一部である。

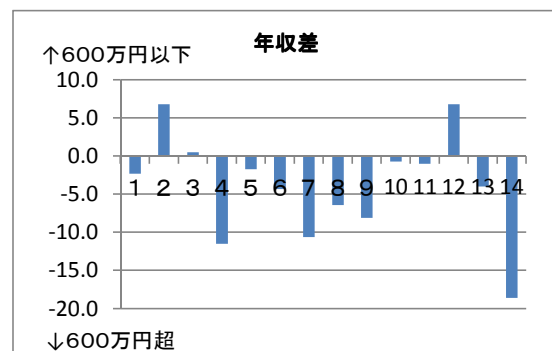
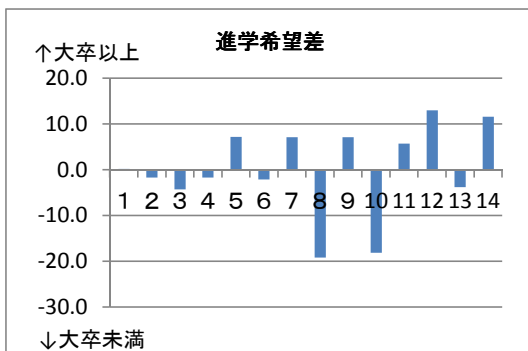
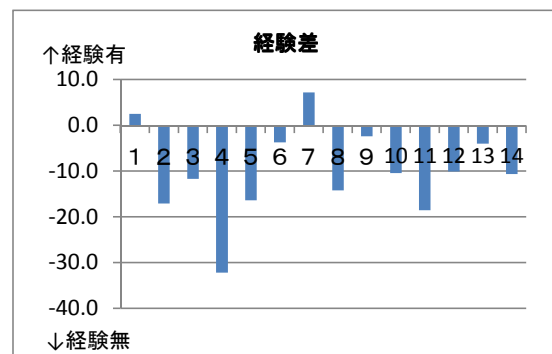
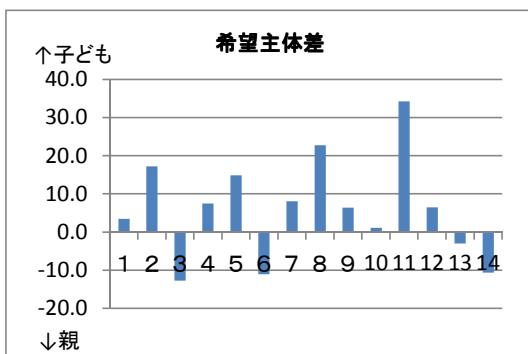
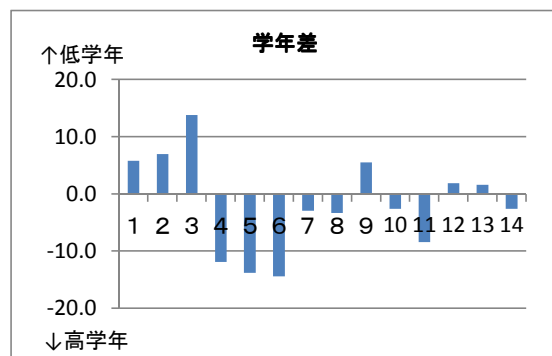
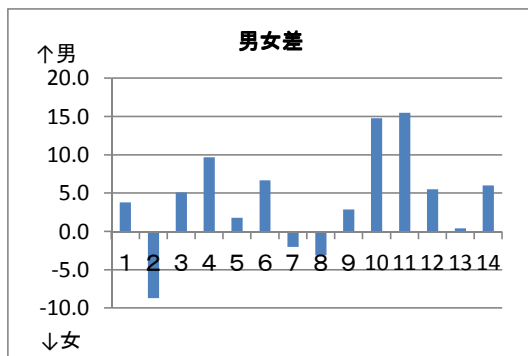
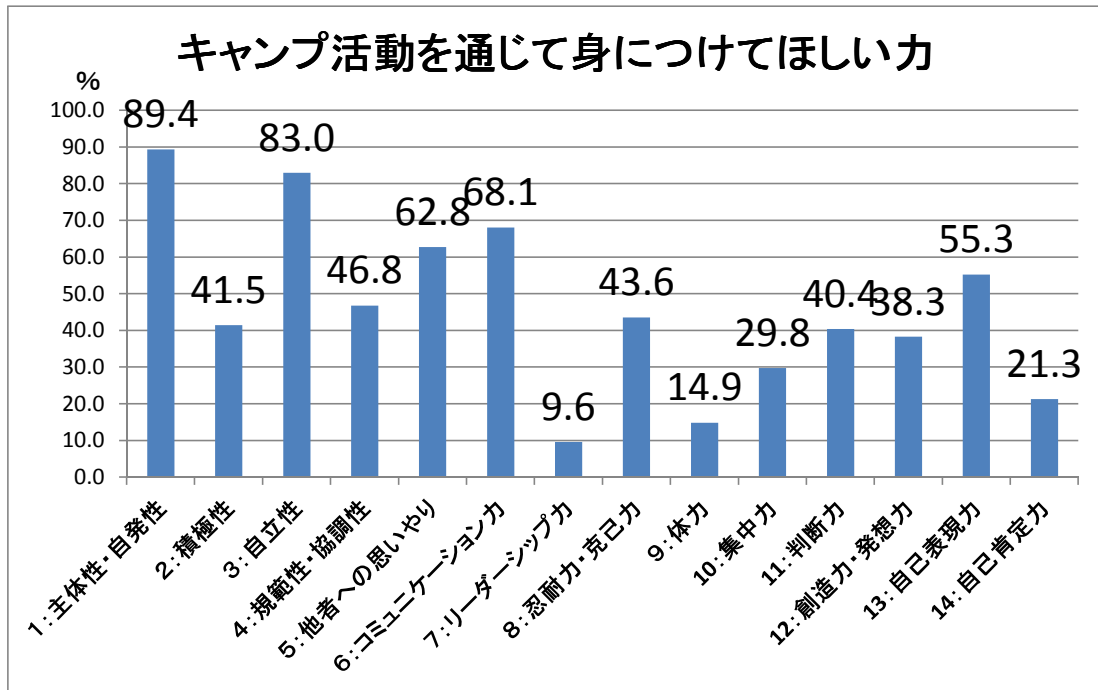
【参考資料・文献】

- ・ 国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査 報告書・集計結果」平成20年度
<http://www.nier.go.jp/08chousakekkahoukoku/index.htm>
- ・ 中央教育審議会「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」(答申)平成19年1月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm
- ・ 国立青少年教育振興機構「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」
http://www.niye.go.jp/houkoku_srch/chosa.php

資料1-1



資料2-1



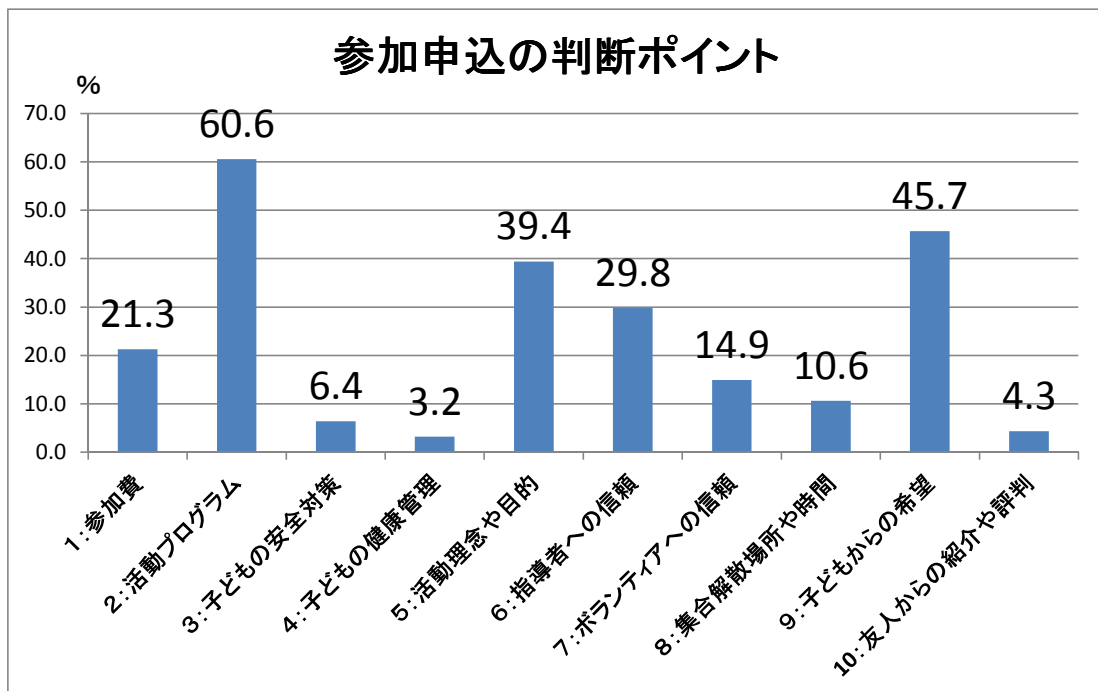
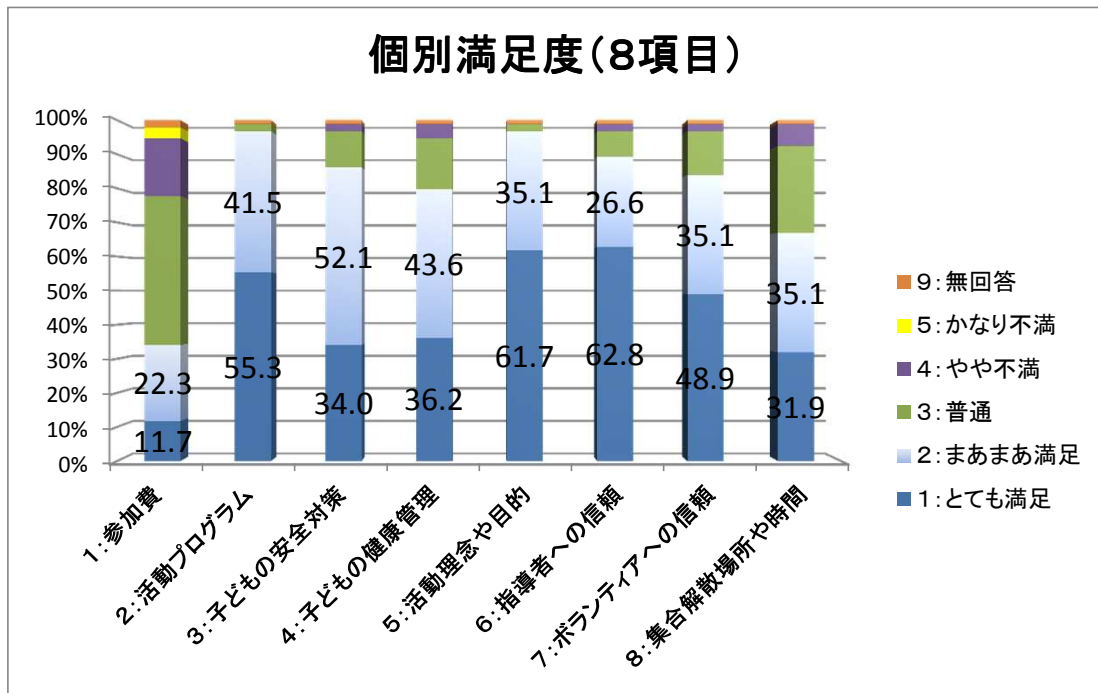
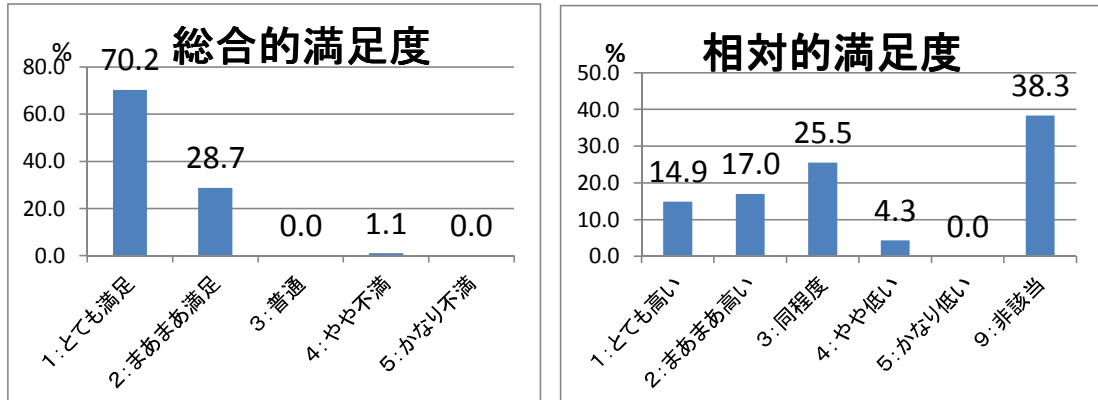
資料2-2

2:積極性や1:主体性(not 2:積極性)と各質問項目との χ^2 値と検定

	1:主体性 (not 2:積極性) 該当:46 非該当:48	有意差	2:積極性 該当:39 非該当:55	有意差
キャンプ活動で身につけてほしい力				
1:主体性・自発性	---	---	4.571	*
2:積極性	---	---	---	---
3:自立性	0.009		2.160	
4:規範性・協調性	2.133		2.468	
5:他者への思いやり	2.732		3.833	
6:コミュニケーション力	2.158		0.422	
7:リーダーシップ力	0.970		2.599	
8:忍耐力・克己力	11.257	**	11.374	**
9:体力	11.498	**	17.880	**
10:集中力	2.790		4.025	*
11:判断力	1.191		3.262	
12:創造力・発想力	0.471		1.741	
13:自己表現力	2.046		5.219	*
14:自己肯定力	0.158		1.910	
キャンプ活動に期待すること				
1:自然体験	1.255		0.006	
2:野外遊び	8.761	**	5.665	*
3:生活体験	0.133		4.860	*
4:集団活動体験	5.242	*	6.675	**
5:宿泊体験	7.397	**	16.253	**
6:教科的学習体験	3.634		2.793	
7:他の児童との交流	7.463	**	4.949	*
8:スタッフ等との交流	1.514		3.830	
9:地域の人との交流	4.037	*	4.783	*
キャンプ活動を主催する望ましい主体				
1:国立の施設	1.503		5.716	*
2:県立や市立の施設	1.493		7.406	**
3:小学校や教育委員会	2.146		4.927	*
4:PTAや児童クラブなど保護者団体	0.358		0.010	
5:青年会議所やJAなど地域団体	0.133		0.328	
6:民間企業が関係する自然学校	0.345		0.163	
7:独立系で民間非営利の自然学校	0.009		0.041	

※有意差 ** : 99%有意(自由度1), * : 95%有意(自由度1)

資料3-1



資料3-2

総合的満足度および相対的満足度と各質問項目との χ^2 検定

	総合的満足度	有意差	相対的満足度	有意差
キャンプ活動で身につけてほしい力				
1:主体性・自発性	0.444		0.598	
2:積極性	0.375		0.569	
3:自立性	4.124 *		0.018	
4:規範性・協調性	0.659		0.001	
5:他者への思いやり	3.836		0.387	
6:コミュニケーション力	1.253		0.181	
7:リーダーシップ力	1.553		0.432	
8:忍耐力・克己力	0.255		0.276	
9:体力	0.002		0.771	
10:集中力	0.004		0.153	
11:判断力	0.230		1.904	
12:創造力・発想力	4.359 *		0.387	
13:自己表現力	0.255		0.672	
14:自己肯定力	0.086		0.208	
キャンプ活動に期待すること				
1:自然体験	6.604 *		0.429	
2:野外遊び	0.490		0.217	
3:生活体験	1.489		0.771	
4:集団活動体験	2.032		1.616	
5:宿泊体験	1.014		0.000	
6:教科的学習体験	3.097		1.752	
7:他の児童との交流	0.040		0.009	
8:スタッフ等との交流	5.717 *		5.524 *	
9:地域の人との交流	1.366		0.214	
キャンプ活動を主催する望ましい主体				
1:国立の施設	0.004		0.837	
2:県立や市立の施設	0.066		0.770	
3:小学校や教育委員会	0.342		1.680	
4:PTAや児童クラブなど保護者団体	2.391		5.718 *	
5:青年会議所やJAなど地域団体	1.489		6.783 **	
6:民間企業が関係する自然学校	4.551 *		2.419	
7:独立系で民間非営利の自然学校	0.708		0.265	

総合的満足度および相対的満足度と個別満足度との χ^2 検定

	総合的満足度	有意差	相対的満足度	有意差
1:参加費	1.084		0.004	
2:活動プログラム	5.190 *		1.933	
3:子どもの安全対策	4.258 *		0.214	
4:子どもの健康管理	9.608 **		0.581	
5:活動理念や目的	2.566		0.002	
6:指導者への信頼	9.441 **		5.718 *	
7:ボランティアへの信頼	12.534 **		0.214	
8:集合解散場所や時間	5.733 *		0.031	

※ χ^2 検定の属性設定は以下のとおりとした。

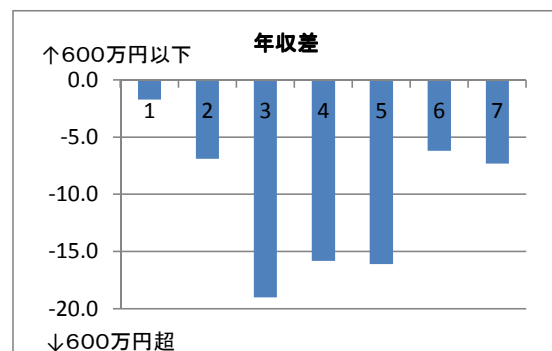
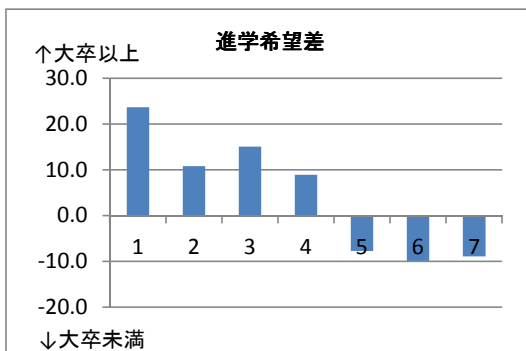
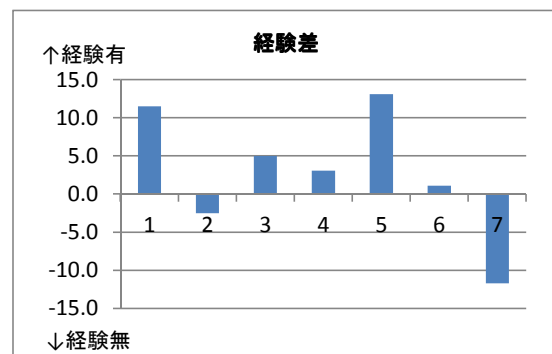
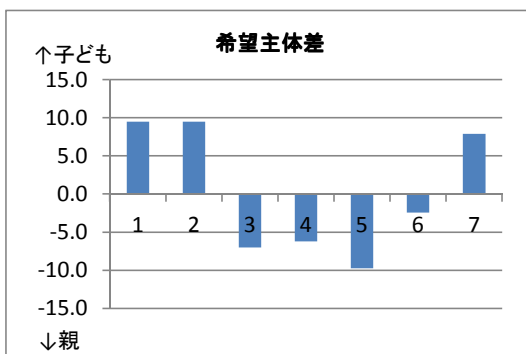
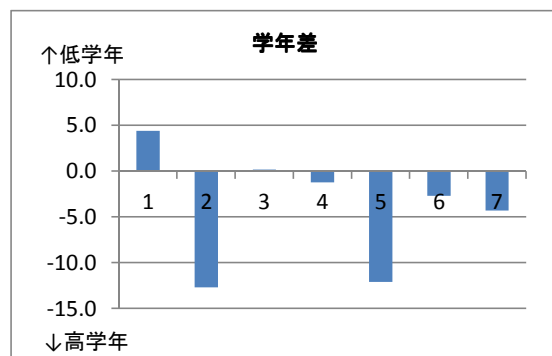
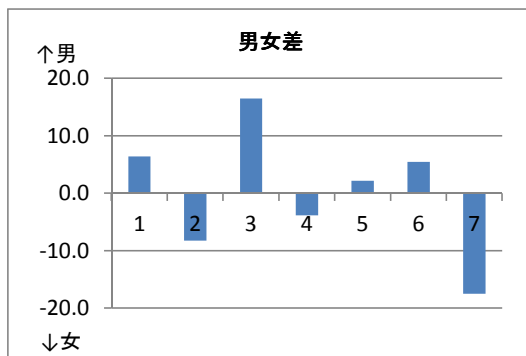
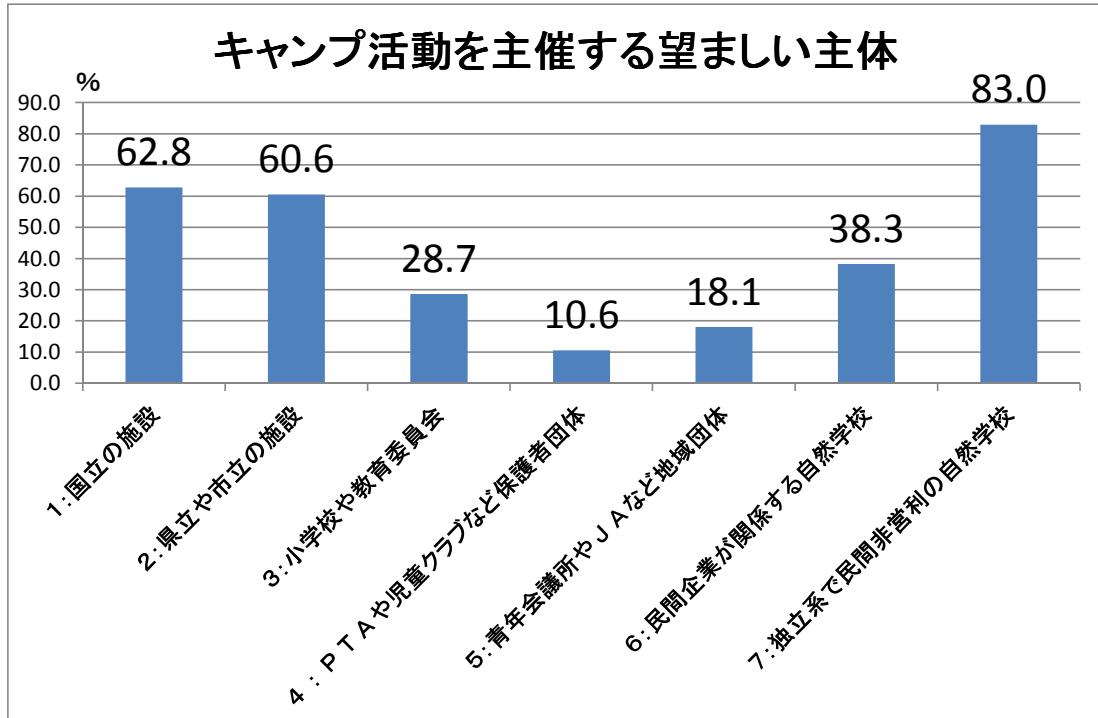
総合的満足度:とても満足とまあまあ満足の2属性

相対的満足度:とても満足・まあまあ満足と普通以下の2属性

1~8の各個別満足度:とても満足・まあまあ満足と普通以下の2属性

※有意差 ** :99%有意(自由度1), * :95%有意(自由度1)

資料4-1



資料4-2

7: 独立系民間非営利と各質問項目とのχ²検定

	7: 独立系 を希望	有意差	7: 独立系 を強く希望	有意差
キャンプ活動で身につけてほしい力				
1: 主体性・自発性	0.391		8.360	**
2: 積極性	0.041		6.427	*
3: 自立性	1.584		4.452	*
4: 規範性・協調性	0.671		0.021	
5: 他者への思いやり	1.345		0.831	
6: コミュニケーション力	1.243		2.493	
7: リーダーシップ力	2.042		0.008	
8: 忍耐力・克己力	2.718		0.086	
9: 体力	3.374		0.036	
10: 集中力	0.020		0.057	
11: 判断力	0.069		0.302	
12: 創造力・発想力	0.005		0.510	
13: 自己表現力	2.477		1.131	
14: 自己肯定力	2.599		0.164	
キャンプ活動に期待すること				
1: 自然体験	0.040		4.802	*
2: 野外遊び	0.003		0.597	
3: 生活体験	0.622		1.637	
4: 集団活動体験	0.041		0.233	
5: 宿泊体験	0.007		3.521	
6: 教科的学習体験	0.040		0.351	
7: 他の児童との交流	1.597		0.279	
8: スタッフ等との交流	5.686	*	0.513	
9: 地域の人との交流	3.095		1.908	
キャンプ活動を主催する望ましい主体				
1: 国立の施設	1.235		---	---
2: 県立や市立の施設	0.156		---	---
3: 小学校や教育委員会	0.131		---	---
4: PTAや児童クラブなど保護者団体	0.391		1.122	
5: 青年会議所やJAなど地域団体	4.257	*	1.637	
6: 民間企業が関係する自然学校	8.381	**	5.255	*
7: 独立系で民間非営利の自然学校	---	---	---	---

7: 独立系民間非営利と個別満足度とのχ²検定

	7: 独立系 を希望	有意差	7: 独立系 を強く希望	有意差
0				
1: 参加費	0.520		0.025	
2: 活動プログラム	1.733		0.633	
3: 子どもの安全対策	6.642	**	1.791	
4: 子どもの健康管理	2.239		0.604	
5: 活動理念や目的	10.629	**	0.633	
6: 指導者への信頼	0.273		0.868	
7: ボランティアへの信頼	0.342		0.220	
8: 集合解散場所や時間	0.256		0.222	

※「独立系を強く希望」とは、独立系民間非営利自然学校を希望する人の中で、
1: 国立・2: 県立や市立・3: 小学校や教育委員会のいずれをも希望しない人(n=22)

※χ²検定の属性設定は以下のとおりとした。

1~8の各個別満足度: とても満足・まあまあ満足と普通以下の2属性

※有意差 **: 99%有意(自由度1), *: 95%有意(自由度1)

以下、調査票 (手書き数字は回答数) 全数 n = 94

キャンプ活動に期待することは? (○はいくつでも)

- 1 自然体験 (自然観察や山歩き、ナイトハイクなど) 87
- 2 野外遊び (水遊びや野外ゲームなど) 70
- 3 生活体験 (野外炊飯など) 77
- 4 集団活動体験 78
- 5 宿泊体験 42
- 6 教科的学習体験 7
- 7 他の小学校児童との交流 60
- 8 ボランティアリーダーやスタッフとの交流 49
- 9 地域の人たちとの交流 13
- 10 その他 () 3

キャンプ活動を通じて身につけてほしい力は? (○はいくつでも)

- 1 主体性・自発性 (自分で考えてする) 84
- 2 積極性 (言われたことを進んでする) 39
- 3 自立性 (自分のことは自分でする) 78
- 4 規範性・協調性 44
- 5 他者への思いやり 59
- 6 コミュニケーション力 64
- 7 リーダーシップ力 9
- 8 忍耐力・克己力 41
- 9 体力 14
- 10 集中力 28
- 11 判断力 38
- 12 創造力・発想力 36
- 13 自己表現力 (自分の意見を言い伝えること) 52
- 14 自己肯定力 (自分は自分でいいのだと前向きに考えること) 20
- 15 その他 () 2

あそあそ自然学校に参加しての総合的な満足度は? (○は1つ)

- 1 とても満足 66
- 2 まあまあ満足 27
- 3 普通 0
- 4 やや不満 1
- 5 かなり不満 0

お子さんの性別は？ (○は1つ)

36 58
男の子 女の子

お子さんの学年は？ (○は1つ)

18 23 18 19 10 6
1年 2年 3年 4年 5年 6年

あそあそ自然学校のキャンプに参加したきっかけは？ (○は1つ)

- 1 主に子どもの希望 37
- 2 主に親の希望 14
- 3 子どもと親の希望が同程度 36
- 4 主に友だちからの誘い 6
- 無回答 1

今年夏のあそあそ自然学校キャンプに参加するまでに参加したことのあるキャンプがあればお答えください。(○はいくつでも)

- 1 国立や県立など行政系施設が主催のキャンプ 28
- 2 小学校が主催のキャンプ 12
- 3 幼稚園や保育所、保育園が主催のキャンプ 17
- 4 PTAや児童クラブ、母親クラブなど保護者団体が主催のキャンプ 7
- 5 青年会議所やJA、地元企業など地域団体が主催のキャンプ 3
- 6 あそあそ自然学校が主催のキャンプ 36
- 7 他の独立系民間非営利団体や自然学校が主催のキャンプ 21
- 8 家族でのキャンプ (テントキャンプやオートキャンプなど) 24

お子さんの将来の進学期待は？ (○は1つ)

- 1 四大・大学院卒以上 55
- 2 短大・専門学校卒以上 22
- 3 中学・高校卒以上 14
- 無回答 3

さしつかえなければ世帯収入をお答えください。(○は1つ)

5 17 17
200万円以下 201~400万円 401~600万円

18 11 9 無回答 17
601~800万円 801~1000万円 1000万円超

今年夏あそそ自然学校に参加してのそれぞれの満足度は？
また、参加申込の可否を決定づけた判断ポイントは？（〇はいくつでも）

	今年夏あそそ自然学校に参加しての満足度					無回答 ↓	判断ポイント (〇はいくつでも)
0 記入例	とても満足	まあまあ満足	普通	やや不満	かなり不満		〇
1 参加費	11	21	41	16	3	2	20
2 活動プログラム	52	39	2	0	0	1	57
3 子どもの安全対策	32	49	10	2	0	1	6
4 子どもの健康管理	34	41	14	4	0	1	3
5 活動理念や目的	58	33	2	0	0	1	37
6 指導者への信頼	59	25	7	2	0	1	28
7 ボランティアへの信頼	46	33	12	12	0	1	14
8 集合解散場所や時間	30	33	24	6	0	1	10
9 子どもからの希望	とても満足	まあまあ満足	普通	やや不満	かなり不満		43
10 友人からの紹介や評判	とても満足	まあまあ満足	普通	やや不満	かなり不満		4

あそそ自然学校のキャンプと過去に参加したことのある他団体が主催のキャンプ、総合的に見てどちらの満足度が高いですか？（〇は1つ、該当者のみ回答ください）

- 1 あそそ自然学校の方がとても高い 14
- 2 あそそ自然学校の方がまあまあ高い 16
- 3 どちらも同程度 24
- 4 あそそ自然学校の方がやや低い 4
- 5 あそそ自然学校の方がかなり低い 0

キャンプ活動を主催する主体として、どんな組織や団体が望ましいと考えますか？
（〇はいくつでも）

- 1 国立の施設（立山青少年自然の家など。国の税金を投入して実施） 59
- 2 県立や市立の施設（呉羽青少年自然の家など。県や市の税金を投入して実施） 57
- 3 小学校や教育委員会 27
- 4 PTAや児童クラブ、母親クラブなど保護者団体 10
- 5 青年会議所やJA、地元企業など地域団体 17
- 6 民間企業が関係する自然学校（トヨタ白川郷自然学校、東京電力自然学校など） 36
- 7 独立系で民間非営利の自然学校（あそそ自然学校など） 77